

1. 科目名 (単位数)	公民科指導法Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3443
2. 授業担当教員	荻原 邦昭		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	公民科の目標は「社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する」である。 本科目では、学習指導要領で示される指導内容についての解説にとどまらず、授業実践事例について学ぶことで、受講生の公民科指導能力の成長を理論と実践の両面から支援することを目指す。そのために公民科の指導を通して公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度を養うことの意義や、参画に必要な知識や技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等について理解し、これからの時代に求められる資質・能力や公民科学習のあり方を探求する。 なお公民科指導法Ⅱでは、公民科科目のうち、倫理および政治経済に重点を置いている。自立して思索を行い、他者と共に生きる主体を育む「倫理」、グローバルな視点をより重視して国家及び社会の形成により積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」といった各科目の特性についても取り上げるものとする。		
8. 学習目標	1. 公民科科目「倫理」「政治経済」の意義、目標および内容について説明することができる。 2. 「公民科」授業の実践に必要な知識、技能について見通しを持ち、教員を目指すに当たっての学習課題を設定することができる。 3. 公民科科目「倫理」「政治経済」の教育内容となる現代の諸課題について他者との議論を通して理解を深め考察することができる。 4. 「倫理」「政治経済」に関する指導計画、単元指導案、学習指導案を作成することで授業づくりについて学び、公民科の実践課題について考えることができる。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート 課題	【指導案と模擬授業】 作成された指導案と模擬授業 【期末レポートの課題】 「現代の高校生に倫理や政治・経済の問題意識を高めるための指導上の工夫を述べよ」 ※1, 000字～1, 200字程度で述べる。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 文部科学省『高等学校学習指導要領解説Ⅱ公民編』東京書籍（以下、シラバス内ではテキストと呼称する） 【参考書】 1) 日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい、2012。 2) 日本公民教育学会編『公民科教育事典』第一学習社、2009。 3) 文部科学省『高等学校公民科用教科書 倫理』東京書籍。 4) 文部科学省『高等学校公民科用教科書 政治・経済』東京書籍。 【参考資料】 高等学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 1. 公民科科目「倫理」「政治経済」の意義、目標および内容について説明することができる。 2. 「公民科」授業の実践に必要な知識、技能について見通しを持ち、教員を目指すに当たっての学習課題を設定することができる。 3. 公民科科目「倫理」「政治経済」の教育内容となる現代の諸課題について他者との議論を通して理解を深め考察することができる。 4. 「倫理」「政治経済」に関する指導計画、単元指導案、学習指導案を作成することで授業づくりについて学び、公民科の実践課題について考えることができる。 ○評定の方法 成績評価の規準1～3についての達成度を以下の方法により評価する。 ・各受講生の参加意欲・態度（課題の提出状況も含む）について総合的に評価する。(30%) ・各受講生の授業での発言・共同作業（模擬授業やディスカッションなど）の実態等から総合的に評価する。(30%) ・各受講生の知識理解や思考の深まりについて、作成した指導案・模擬授業の指導内容・レポートから評価する。(40%)		
12. 受講生への メッセージ	受講生の多くは将来、高等学校教諭を志すと推察するが、免許の取得には、実習がある。短期間の実習だが、その間に実習先の生徒に有益な授業実践ができるように努めて欲しい。たとえ短期であっても教師に変わりはない。免許を取得し、実際に教育機関へ勤務することになればそれ以上の責務を負うこととなる。本講義を通して、「学習者」としてだけではなく、「指導者」としての意識を併せ持てるよう努力して欲しい。また、倫理・政治経済は専門知識を要求される科目でもあり、指導法以外の講義で学んだ事項についてはよく復習して欲しい。本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の通りである。 1. 授業に集中する。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁) 2. 欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告する。(事後に提出する。事前は口頭報告する) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となる。 3. 明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めない。 4. 授業中はスマホの電源を切る。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用を許可する。 また、教員は次のことを実行する。 1. 授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全員に聞こえる大きさの声で話す。また、専門用語はわかりやすく説明する。		

	3. 一方通行の講義だけでなく、模擬授業、討論などを行いながら、学生が積極的に授業に参加（発言・発表等）できる双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、スマホ（メール・通話）の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組む。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とする。受講生各自が自覚を持って講義に参加する。		
13. オフィスアワー	授業時間内にて通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	1)オリエンテーション（シラバスをもとにした本科目の目的、学習の進め方、評価についての説明） 2) 公民科教育の意義を考える 課題：「倫理」「政治経済」に期待されていることは何だろう。	事前学習	教育実習を経験した受講者は、実習記録など見直し、授業実践がどのように展開されていたか復習しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
第2回	1)「倫理」・学習指導要領解説 科目の性格と目標、 2)内容とその取り扱い	事前学習	科目倫理の目標、内容についてテキスト p p 85～90を読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
第3回	「倫理」・学習指導要領解説 指導計画の作成と指導上の配慮事項について	事前学習	テキスト p p 117～120を読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
第4回	1)「政治経済」・学習指導要領解説 科目の性格と目標 2)内容とその取り扱い	事前学習	科目政治経済の目標、内容についてテキスト p p 121～127を読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
第5回	「政治経済」・学習指導要領解説 指導計画の作成と指導上の配慮事項について	事前学習	テキスト p p 158～159を読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
第6回	「倫理」指導の実際・授業事例の検討	事前学習	「倫理」の授業の在り方を考えておく。
		事後学習	授業事例の良さと課題を整理する。
第7回	「政治経済」指導の実際・授業事例の検討	事前学習	「政治経済」の授業の在り方を考えておく。
		事後学習	授業事例の良さと課題を整理する。
第8回	「倫理」「政治経済」指導案の構想①	事前学習	どのような授業を行いたいのか構想する。
		事後学習	指導案の見直しを行う。
第9回	「倫理」「政治経済」指導案の構想②	事前学習	指導案の完成を準備する。
		事後学習	模擬授業の準備を行う。
第10回	「倫理」の模擬授業	事前学習	授業に必要なものを準備する。
		事後学習	模擬授業の相互評価を行う。
第11回	「政治経済」の模擬授業	事前学習	授業に必要なものを準備する。
		事後学習	模擬授業の相互評価を行う。
第12回	「倫理」「政治経済」の抱える問題	事前学習	「倫理」「政治経済」の直面する諸課題を考える。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
第13回	これからの「倫理」「政治経済」の授業	事前学習	望ましい授業はどうあるべきか考える。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
第14回	1)「主権者教育」の在り方 2)模擬選挙の授業実践例	事前学習	主権者教育とは何か調べておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る
第15回	「公民科教師に求められる資質について」の意見交換	事前学習	公民科教師に求められる資質能力についてまとめておく。
		事後学習	意見交換を通して、自分の考え以外に様々な考えがあることをまとめ、公民科教師にあるべき姿を考える。